

インターネットは、手軽に情報を受信・発信できる便利なメディアとして広く普及しています。その反面、匿名性を悪用した誹謗中傷の書き込みや子ども同士によるいわゆるネットいじめなど、人権に関する様々な問題が発生しています。

本号では、インターネット社会の現状への理解を深め、安心してつながり合えるネット社会について考えてみましょう。

取材
ノート

情報モラル向上の取り組みを通じた
地域交流

兵庫県立千種高等学校



生徒会のメンバー



インターネットサミットでのグループワークの様子



担当の戒原教諭

兵庫県立千種高等学校は、宍粟市千種町の山あいにある、兵庫県初の連携型中高一貫教育校です。同校は、町内の園小中高連携教育を推進する中で、多様な年代の方々との交流に積極的に取り組んでいます。また、同校生徒会が主体となり、情報モラルの向上を通して地域と交流する「千種モデル」を構築し、地域発のネットルールづくりをめざしています。

兵庫県立千種高等学校

宍粟市千種町千草727-2

TEL 0790-76-2033 URL <http://www.chikusa-hs.jp>

「千種モデル」誕生のきっかけ

千種高校では、4年前に兵庫県教育委員会が推進する「高校生心のサポートシステム研究実践」の一環として情報モラルの育成・向上に取り組み始めました。生徒にインターネットやスマートフォンについての実態調査を行った結果から、生徒会が誤解が生じるような書き込みをしないことや利用方法について家族と相談することを盛り込んだ「千種高校情報モラル改善ルール」を提案しました。

千種町インターネット宣言2016

<利用時間について>

①小中学生は夜10時30分まで。ただし、寝る30分前には終わる。

②高校生は夜11時まで。ただし、寝る30分前には終わる。

<インターネット利用のための標語>

①「つつい」の危険信号 認識しよう

②見ず知らず SNSで得た危険

また、情報モラルについて学んだことを、地域交流を通して地域の方々と共有できるように、インターネットサミットや高校生によるスマートフォン教室を開催したり、千種町園小中高合同文化祭で、情報モラル啓発劇を披露したりしています。「千種モデル」を広く伝えることで、地域活性化にも貢献しています。

インターネットサミットの取り組み

中でも千種高校の特色ある取り組みでもある、地域と連携したインターネットサミットは、今年度で3回目となります。1回目は中学生と高校生で、2回目は小学生と中学生・高校生で、そして3回目は今年、小学生と中学生・高校生に加え、保護者も参加しました。「千種町インターネット宣言2016」に対するアンケート結果をもとに、児童生徒及び保護者の視点から、「インターネットの問題点や危険性」「インターネット宣言を徹底するための新たな取り組み」についてグルー

情報モラルの文化をつくる

生徒会のメンバーは、これまでの先輩達の活動を見て、「これからは自分たちが中心となって活動していく」「地域とつながる活動はやりがいがある」と意欲にあふれています。担当の戒原進一教諭は「情報モラル向上の取り組みを通して、生徒が自ら考え、発言するようになり、行動力も育った」と生徒の成長を感じています。また、「スマートフォンやインターネットについて地域で一緒に考えていく取り組みを継続し、安心してつながり合えるネット社会をめざしていきたい」と話します。

山田潔校長は、「押しつけではなく、自分たちで考えていくインターネットサミットを継続し、自分も他者も大事にできる情報モラル意識を高めていきたい」と語ります。

これからも、千種高校は、地域ぐるみでの情報モラル向上の取り組みを、その中心的役割を担いながら進めていきます。